

2025年度 SSI（総探）

【第26回】 各自の研究活動

2026年2月12日（木）



これからの予定（各回のおおよその目標）

12月11日(木) 6限	リサーチクエスチョンの導出→明確化	
12月18日(木) 6限	仮説を立てる	概要説明
1月 8日(木) 6限	仮説を立てる	
1月29日(木) 6限	仮説の検証方法の検討	スライド準備
2月 5日(木) 6限	仮説の検証方法の検討	↓ 要項発表
2月12日(木) 6限	研究計画書の整理	スライドの完成
2月19日(木) 6限	中間発表の準備	リハーサル
2月26日(木) 5・6限	専門的課題研究中間発表会	

専門的課題研究中間発表会 (2/26)

今年度の課題研究の集大成！

次年度に向けて研究の質を高めよう！

1チーム 発表：5分 質疑応答：なし

発表内容

研究計画書
(1)-(4)部分

- 研究テーマの説明 分かりやすく！
- 研究背景（研究動機や先行研究）
- リサーチクエスチョン 明確に！
- 仮説と検証方法 論理的に！

高校46期 SS I・II (総合探究)		研究計画書兼報告書	
チーム番号		研究者氏名	
※チームメンバー全員の氏名を記入			
具体的な研究手法の計画・実施・まとめを記録するシートです。一つの研究計画の実施が終わったあとで、さらに新しい研究計画を実施する場合には、その都度、このシートに記入します。			
(1) 研究テーマ			
(2) 研究背景 (研究動機やテーマについての先行研究、一般的な理解など)			
(3) 研究目的			
①リサーチクエスチョン			
②リサーチクエスチョンの意義			
(4) 研究手法 (『課題研究メソッド2nd Ed.』p.73-95参照)			
①研究手法の種類 当てはまるものを選択			
☐ ①			
②具体的な			
※文献調査の場合 インタビュー の、③実施手順			

中間発表会教室割 (2/26)

教室	チーム数	発表チーム番号											
1組	10	A01	A02	A03	A04	A05	A06	A07	A08	A09	A10		
2組	12	B01	B02	B03	B04	B05	B06	B07	B08	B09	B10	B12	B14
3組	12	C01	C03	C04	C05	C06	C07	C08	C09	C10	C11	C12	C14
4組	12	D01	D02	D03	D04	D05	D06	D07	D08	D09	D10	D11	D12
5組	12	B11	B13	B15	C02	C13	E09	E10	F02	F09	G03	G08	G12
6組	12	E01	E02	E04	E05	E06	E07	E08	E11	E12	E13	E14	E15
7組	12	F01	F03	F04	F05	F06	F07	F08	F10	F11	F12	F13	F14
8組	12	G02	G04	G05	G06	G07	G09	G10	G11	I01	I02	I03	I04
物理	12	H02	H03	H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13
生物	12	J01	J02	J03	J04	J05	J06	J07	J08	J09	J10	J11	J12
演習室2	12	K01	K02	K03	K04	K05	K06	K07	K08	K09	E03	H01	H14

当日のタイムテーブル (2/26)

1チーム 発表: 5分 質疑応答: なし 入替: 2分

説明・準備	13:25-13:30		
発表Ⅰ	13:30-14:00	①13:30-13:35 ③13:46-13:51	②13:37-13:42 ④13:53-13:58
休憩・調整	14:00-14:05		
発表Ⅱ	14:05-14:35	⑤14:05-14:05 ⑦14:21-14:26	⑥14:12-14:17 ⑧14:28-14:33
休憩・調整	14:35-14:40		
発表Ⅲ	14:40-15:15	⑨14:40-14:45 ⑪14:56-15:01	⑩14:47-14:52 ⑫15:03-15:08
振り返り	15:10-		

本日の目標 スライド完成 + 発表原稿準備

タイトルスライドを入れて**4**枚以上で作成。デザインは自由。

1

課題研究メソッド p.142-144 ①

プレ研究計画書兼報告書 (1) 研究テーマ

生成AIの社会的課題

テーマ

チーム番号: 920

全員の 組番号 + 氏名

チーム番号

メンバー

この3つを必ず入れる

研究テーマについて、**分かりやすく**説明する。

2

課題研究メソッド p.142-144 ③

プレ研究計画書兼報告書 (2) 研究背景

研究背景

- 初めて発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる現状や先行研究・事例を説明する。
- 発表で用いる言葉の意味や定義、現状を表すデータ、先行研究・事例を紹介する。
- これまでにどのような取り組みや研究が行われ、何が分かっているのか、何がすでに解決されているのかなどを説明する。

リサーチエッセイの背景や仮説の根拠となっている事実を述べる。

3

課題研究メソッド p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書 (3) ① リサーチエッセイ (3) ② リサーチエッセイの意義

リサーチエッセイ

- 研究に取り組んだリサーチエッセイの内容とそれが生じた背景を示し、研究の目的を示す。
- この研究で考えられる社会や学術への貢献、社会的な意義を述べることで、聴衆の注目をより集めることができる。
- プレゼンテーションの導入部分として、「この研究は必要だ」、「面白そうだ」というように興味をもってもらえるようにまとめる。

何がまだ答えの明らかになっていないことなのか、自分たちが何を解決したいのかを**明確に**説明する。

4

課題研究メソッド p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書 (3) ③ 仮説

仮説と検証方法

- リサーチエッセイに対し、自分たちの設定した「仮説」(予想される仮の答え)をどのように設定したのかを説明する。
- 先行研究・事例から根拠を持って仮説を示すことが大事である。
- できるだけ複数の仮説を設定する。
- どのような研究方法を用いてリサーチエッセイの解決に挑むのか、具体的に述べる。
具体的でない例: 「インターネットで調べる」、「アンケートを行う」

仮説の根拠を現在明らかになっている事実をもとに、**論理的に**説明する。

引用文献・参考文献の書き方

スライド上で使用した引用文献・研究で使用した参考文献を示す。
文献の種類ごとに書誌情報の記載を統一する。

例) ※詳細は課題研究メソッドp.176－177

- 本(日本語): 吉川俊哉 (2011). 『大学とは何か』 岩波書店.
(著者) (発行年) (書名) (出版社)
- 論文(日本語): 中野由美子 (1974). 「階層と言語 教育社会学における言語研究の位置づけ」
(著者) (発行年) (論文のタイトル)
『教育社会学研究』 29(0), 146-160.
(雑誌名) (巻数・号数) (論文のページ)
- Webページ: 文部科学省 (2012). 「大学改革実行プラン～社会変革のエンジンとなる大学づくり～」
(作成者) (公開年: 不明な場合は省略可) (Webページ名)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/022/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2012/09/19/1325116_7.pdf
(URL)
2020年11月2日閲覧.
(アクセス日)

スライドチェックリスト + 支援Gem

SS I 専門的課題研究中間発表会 スライドチェックリスト

チーム番号	確認	項目
本文		タイトルはその研究の内容を適切に表しているか？
		所属・名前が明記されているか？
		導入となる序論や研究背景が示されているか？
		一般的でない言葉や、意味や定義があいまいな言葉を説明しているか？
		リサーチエスチョン（問い）は示されているか？
		仮説が根拠とともに示されているか？
		研究方法が具体的に示されているか？
		用いる研究方法是仮説の検証やリサーチエスチョンへの回答に適切か？
		引用文献・参考文献を各スライドに示したうえで、最後に正しくまとめているか？
		論理の流れがわかりやすいか？（ストーリーの一貫性）
		スライド1枚あたりの情報量は適切か？（詰め込みすぎでないか）
		発表の時間に対して、スライドの枚数や長さは適切か？
		不快な表現や差別的な表現が使われていないか？
		全体を通して何を伝えたいかが明確になっているか？
体裁		誤字・脱字がないか？
		フォントの種類が統一されているか？
		フォントの大きさは適切か（後方から見えるか）？
図や表		図や表の活用、デザインも含め、見やすいものになっているか？
		図や表に番号・キャプション（説明）をつけているか？
		グラフの縦軸、横軸に名前をつけているか？
		軸の単位が書かれているか？
		凡例（図の中で使用する記号の意味を説明するもの）が示されているか？
		図や表の説明が本文（口頭説明を想定したスライド内）でなされているか？
		引用先（出典）を明記しているか？

チェックリストの
各項目を1つずつ丁寧に確認しましょう！



【全般】発表スライド作成支援Gem

佐藤健悟・13:04

専門的課題研究中間発表会に向けてスライド作成を進めていると思います。
下記のチェックリストを確認しながら、研究発表にふさわしいスライドに仕上げていきましょう。

https://drive.google.com/file/d/176-MQU77FdfQ_5rr_DhHyxQCoZY5lNP/view?usp=drive_link

研究発表スライド作成支援
Gem



研究発表スライド作成支援

📎 ファイルをアップロード

📁 ドライブから追加

自分のチームのスライドを添付



🛠 ツール

思考モード



支援Gemを活用するうえでの心構え

【AIの特性：思考のパートナー】

- ❖ AIは「正解」を出す道具ではなく、**思考のパートナー**である。
- ❖ 研究の背景や込めた思いなど、見えない文脈はAIには読めない。
- ❖ 内容を最も深く理解しているのは、自分たちと指導の先生である。

【人間の役割：主体的なブラッシュアップ】

- ❖ AIの助言を鵜呑みにせず、最後は自分たちの責任で判断を下す。
- ❖ チェックリストは最低限であり、その先の質こそが重要である。
- ❖ 指導の先生に助言を仰ぎ、**自らの手で「納得の答え」を創り出す**。

今回の中間発表会の重点目標

観点/SSコンピテンシー	レベル4 (卓越している)	レベル3 (十分できている)	レベル2 (概ねできている)	レベル1 (改善を要する)
1. 構成の論理的一貫性 批判的思考力 表現力	目的から考察まで論理的に固く結びつき、一貫したストーリーを構成	全体の流れは明確だが、一部に論理の繋がりが弱い箇所がある	必要な要素は含むが、関係性の説明が不足し構成が断片的	各要素が点在し、論理的な構成がなく全体像を掴めない
2. 課題の背景と意義への理解 未知への好奇心 社会に関かれた姿勢	知的好奇心と社会背景が結びつき、多角的に考察できる	意義は説明できるが、自身の問いを明確に意識していない	意義の説明が抽象的で、なぜ自らが取り組む必要があるか不明確	研究の意義や問題意識に至った背景が説明されていない
3. 問いと仮説の適切性 仮説構築力	先行研究に基き、独自の検証可能な仮説を設定	先行研究と仮説には課題のつながりがあるが、検証力不足	仮説が示すが手順の説明が曖昧で、誰でも実施できない	検証可能な仮説として具体化されず、研究の軸が不明確
4. 研究方法の妥当性 手続的知識 情報活用能力	最適な方法を比較検討し選択、手順を具体的かつ明確に説明	適した方法を選択できるが、選択理由の吟味が不十分	方法は示すが手順の説明が曖昧で、誰でも実施できない	方法が仮説検証に繋がらず、信頼できるデータを得られない
5. 結果の解釈と考察の妥当性 批判的思考力 メタ認知能力	複数視点で客観的に分析し、研究の課題と今後の展望まで言及	論理的な考察はできるが解釈が一面的で、課題の分析に至らず	結果の説明はできるが考察不足で、単なる結果報告に留まる	結果と意見が混同し、客観的事実に基づく考察がない
6. 発表の明瞭性 表現力	聞き手を常に意識し、言葉・声・視線まで工夫した対話的発表	流れは分かりやすいが表現が単調で、聞き手への工夫不足	原稿に沿って説明するが、聞き手を意識せず一方的	資料を読むのみで声量不足等もあり、内容が伝わらない
7. 視覚的表現のデザイン性 表現力 情報活用能力	図表・配色点を強調し、視覚的に分かりやすく伝える	図表・配色は基本的な要素は揃っているが、視覚的な工夫が足りない	図表・配色は基本的な要素は揃っているが、視覚的な工夫が足りない	図表・配色は基本的な要素は揃っているが、視覚的な工夫が足りない
8. 質疑応答における対話力 批判的思考力 協働する力	質問意図を汲み取り、客観的に捉え直し根拠をもって応答	質問を理解し考えを答えるが、データとの関連付けが弱い	質問意図を正確に理解できず、一般的な意見での回答に終始	感情的応答や「分かりません」のみで、対話を深めない

研究計画書(1)-(4)部分

プレゼンテーション技術

研究の
途中経過の
自己点検

発表
スキル
向上

6. 発表の明瞭性

レベル4 (卓越している)	聞き手を常に意識し、 言葉・声・視線まで工夫した対話的発表
レベル3 (十分できている)	流れは分かりやすいが表現が単調で、 聞き手への工夫不足
レベル2 (概ねできている)	原稿に沿って説明するが、 聞き手を意識せず一方的
レベル1 (改善を要する)	資料を読むのみで声量不足等もあり、 内容が伝わらない



表現力

次回 発表練習

Step1

発表原稿を読んで時間を計ってみよう。

Step2

実際にスライドを使い、ジェスチャーも入れながら話して時間を計ってみよう。

Step3

時間の過不足があれば、スライドや発表原稿を修正しよう。

Step4

視線を落とし続けないよう、
できるだけ原稿から目を離して話せるように練習をしよう。

プレゼンテーションにおける話し方

声量	大きすぎず、小さすぎず、適度な声の大きさで
明瞭さ	はっきりと明確に話す
速さ	速すぎず、遅すぎず、適度な速さで
抑揚	一本調子にならないよう強調すべき点を強調
間の取り方	話の区切りや強調する点を明確にするような間
言葉遣い	丁寧に誠意を持って伝える気持ちをもつ
話しぐせ	「えー」など気になる話しぐせを極力抑える

プレゼンテーションにおける態度

ジェスチャー	適切な身振り手振りは、話を分かりやすくする
アイコンタクト	聞き手に向かって話し、視線を合わせる
身体の向き	スクリーンではなく聞き手の方に身体を向ける
立ち位置	スクリーンに重ならないような位置に
姿勢	話しているときだけでなく常に姿勢を正す
表情	基本的には、にこやかに、表情をつけて話す
服装	だらしない恰好は、話の説得力を低下させる

「探究ノート」 活動記録の記入

Classroom 「【全般】 探究ノート」

高校45期 SS I (総合探究)		探究ノート					
チーム番号		クラス	1 -	番号		氏名	
共同研究者							

↑ チームメンバー全員の組番号と氏名を記載（例：640 芝浦 太郎 40 柏 花子）

【日々の活動記録】（①を授業開始時に、②③を授業終了時に記入）

日付	活動記録 ①今日の予定・目標 ②本日の活動内容 ③次に行うこと、次までに行うこと
11/5	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと
11/12	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと
	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと

（ 右クリック → + 下に行を挿入 を選択して行を追加してください ）

★作成のポイント★

毎回、**活動記録**は必ず書く！

- ①今日の予定・目標
- ②本日の活動内容
- ③次に行うこと

授業開始時

授業終了
5分前

個人でまとめるワークシートで、
その他の使い方は自由です。